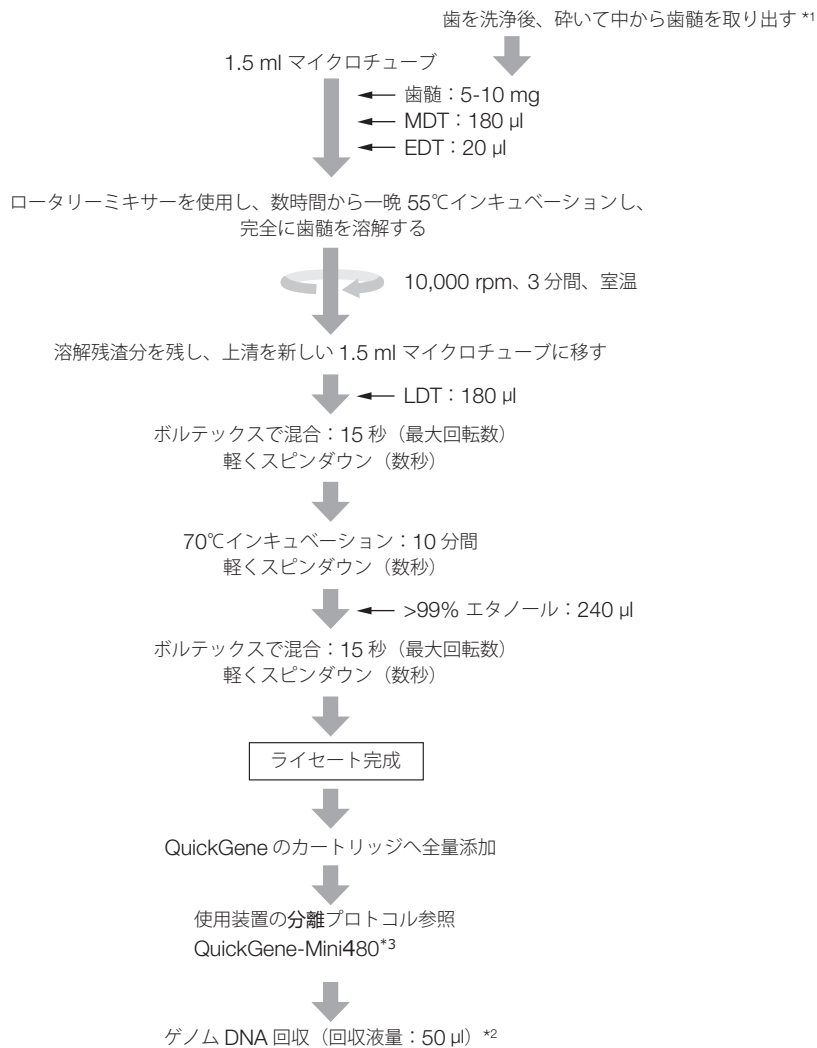


歯髄からのゲノムDNA分離

プロトコル



*1 歯が新しいサンプルでない場合、歯を砕いた後で歯髄腔から歯髄を掻き出す。

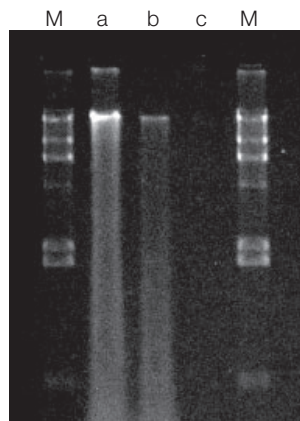
*3 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他 QuickGene シリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

*2 分離 DNA の収量は、歯の状態によって異なる。

結果

- a：屋内で 5 年経過した歯（歯髄の量：10 mg）
b：屋内で 5 年経過した歯（歯髄の量：7 mg）
c：屋外で 3 ヶ月経過した歯（歯髄の量：5 mg）

電気泳動図



M：λ DNA/Hind III digest

- a：屋内で 5 年経過した歯（歯髄の量：10 mg）
b：屋内で 5 年経過した歯（歯髄の量：7 mg）
c：屋外で 3 ヶ月経過した歯（歯髄の量：5 mg）

■ ゲノム DNA の収量

サンプル	a	b	c
収量 (μg)	1.9	1.2	0.1

■ タンパク質の混入：A260/280

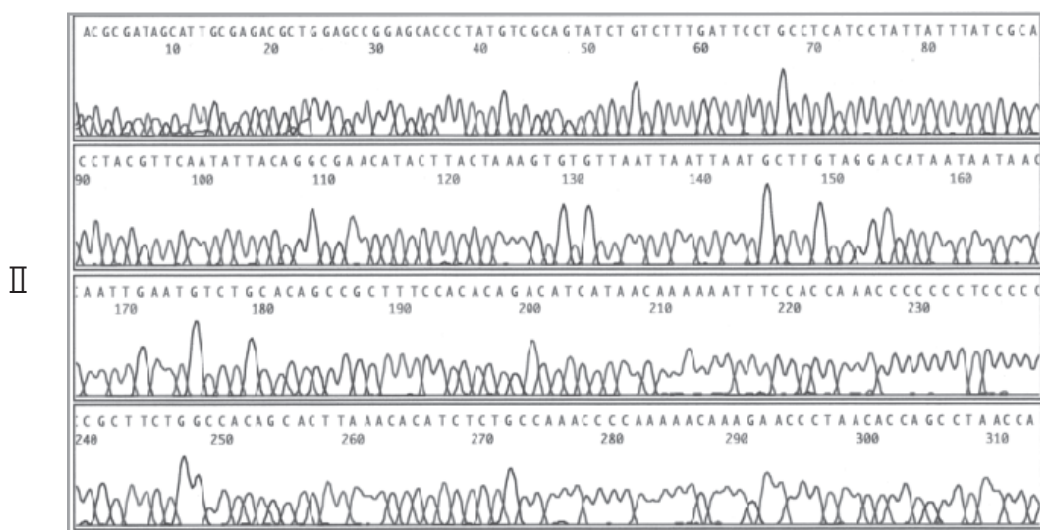
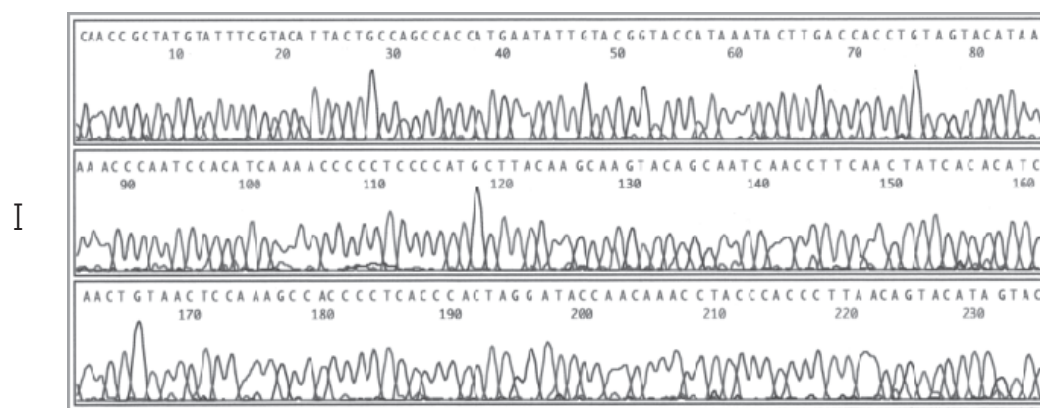
サンプル	a	b	c
QuickGene-810	1.87	1.65	1.05

■ カオトロピック塩の混入：A260/230

サンプル	a	b	c
QuickGene-810	1.58	1.41	0.63

■ その他

- QuickGene-810 を用いて分離したゲノム DNA で、*HVR I* および *HVR II* をターゲットに行ったシーケンス解析。



I : *HVR I* (塩基数：16079-16313)

II : *HVR II* (塩基数：77-388)

■ 共通プロトコルサンプル

データなし